

講義名	対19-日本語C(書く)/15-日本語C【留学生科目】			授業形態	
担当教員	西崎 奈央	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

レポート・論文を書くために必要な基本的な知識を学んだ上で、課題で実際に文章を書くことを通し、自身の考えを論理的に表現する力をつける。

到達目標

- ・レポート・論文の作成で必要とされる基本的な知識がわかるようになる。
- ・レポート・論文の課題テーマについて、論理的な自身の考えを持つことができるようになる。
- ・レポート・論文の作成で必要とされる知識を使い、論理的でわかりやすい文章が書けるようになる。

提出課題

ワークシート、課題作文等、授業中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各学生が提出した課題について、個別にフィードバックを行う。また、全体としてのフィードバックも授業内で行う。

評価の基準

中間・期末試験（40％）、提出物・課題（40％）、授業参加態度（20％）による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

- ・出欠は毎回取る。
- ・3分の1以上（3回以上）欠席した場合は、試験を受けることができない。
- ・授業開始後、15分以内の入室は遅刻とし、3回の遅刻で1回の欠席とする。
- ・授業内に他の受講生とのペア、グループワークを行う。
- ・真面目かつ積極的な受講を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.改訂版留学生のための論理的な文章の書き方。	二通信子、佐藤不二子	スリーエーネットワ ク	1400	978-4-88319-257-1
.ここがポイント！レポート論文を書くための日本語文法。	小森万里、三井久美子	くろしお出版	1600	978-4-87424-718-1
.留学生のためのここが大切文章表現のルール。	石黒圭、筒井千絵	スリーエーネットワ ク	1600	978-4-88319-502-2

その他

授業計画

1. 授業内容や評価の説明 / 書き言葉の文体 / 段落
2. 名詞節「こと」と「の」の使い分け
3. 語や節の名詞化
4. 比較・対照の文の書き方
5. 文の呼称
6. 助詞の使い分け
7. 中間試験
8. 他動詞、自動詞、使役形、受身形の使い分け
9. 立場のある文章の書き方
10. 指示語の使い分け
11. 接続詞・接続表現の使い分け
12. 読点の打ち方
13. 因果関係を表す文の書き方
14. レポート・論文で使う語彙の使い分け
15. 期末試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・授業に使用する資料で分からない言葉などを調べ予習を行うこと。（2時間）
- ・その日に学習した内容についての復習を行うこと。（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマポリシー「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に關与している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考